

# 内外情勢の回顧と展望

平成25年（2013年）1月

公安調査庁

Public Security Intelligence Agency

## はしがき

公安調査庁は、「破壊活動防止法」と「無差別大量殺人行為を行った団体の規制に関する法律」（団体規制法）に基づいて、オウム真理教に対する観察処分を実施するなど、団体規制及び規制のための調査を行うとともに、我が国の情報コミュニティの一員として、国際テロや北朝鮮情勢など国内外の情報の収集・分析に取り組んでいます。

この「内外情勢の回顧と展望」（平成25年版）は、平成24年における内外公安動向を回顧し（11月末現在）、今後を展望したものであり、本書が国内外の治安情勢を理解する一助となることを願ってやみません。

なお、本文中、特に断りのない限り、「〇月」との表記は、原則として平成24年（2012年）の当該月を指し、本文に記載した人物の肩書きは、当時のものとしています。



写真奥：公安調査庁（東京・霞が関 中央合同庁舎6号館）  
写真手前：赤れんが棟（法務省旧本館）

「内外情勢の回顧と展望」は、公安調査庁ウェブサイトでも御覧になれます。

<http://www.moj.go.jp/psia/>

# 目次

<b>第1 平成24年の公安情勢の概況</b> .....	<b>1</b>
<b>第2 平成24年の国際情勢</b> .....	<b>3</b>
<b>1 北朝鮮・朝鮮総聯</b> .....	<b>3</b>
(1) 金正恩体制が始動，権力基盤の強化を図る北朝鮮	
(2) 核・ミサイル問題で進展が見られず，停滞が続く米朝関係	
(3) 李明博政権の交代を見据え，韓国への強硬姿勢を続ける北朝鮮	
(4) 「遺骨問題」に前向きな姿勢を示し，4年ぶりに日朝政府間協議に応じた北朝鮮	
(5) 金正恩体制下での「新たな全盛期」を目指し，思想と組織の強化に取り組む朝鮮総聯	
<b>2 中国</b> .....	<b>15</b>
(1) 尖閣諸島「領有権問題」で強く反発，「核心的利益」として対日強硬姿勢を鮮明化	
(2) 活発な周辺外交を展開するも，海洋権益をめぐる周辺国との摩擦激化	
(3) 習近平指導部が発足，第18回党大会では党の求心力低下を懸念し“民意重視”を標榜	
(4) 馬英九総統再選を受け，「平和統一」に向けた環境醸成を強化	
<b>3 ロシア</b> .....	<b>26</b>
(1) プーチン大統領の求心力が低下する中，体制の安定に腐心	
(2) 対中関係を軸に，アジア太平洋諸国との関係強化に取り組み	
(3) 北方領土問題では，解決への意欲を示しつつも島の「自国領化」は推進	
<b>4 中東・北アフリカ</b> .....	<b>30</b>
「アラブの春」の余波で混乱が続く中東・北アフリカ	
<b>5 国際テロ</b> .....	<b>32</b>
(1) 変化するアラブ情勢への適応を図る「アルカイダ」とその関連組織	
(2) アフガニスタン，パキスタンでは，「タリバン」及びその支持勢力が活発な活動を継続	
(3) 東南アジアではイスラム主義及び共産主義過激組織が脅威	
<b>6 我が国に対する有害活動</b> .....	<b>41</b>
軍事転用可能物資・技術や重要情報の獲得を狙った懸念国などの活動が継続	

**■ 第3 平成24年の国内情勢** ..... 44

**■ 1 オウム真理教** ..... 44

- (1) 観察処分期間更新(4回目)。依然として危険性を保持するオウム真理教
- (2) “麻原回帰”路線を徹底し結束強化を図る主流派
- (3) “麻原隠し”路線を貫き「脱麻原」を宣伝する上祐派

**■ 2 社会的に注目を浴びた事象をめぐる諸団体の動向** ..... 57

- (1) 原発をめぐる諸団体の動向
- (2) 在日米軍やTPPなどをめぐる諸団体の動向

**■ 3 過激派** ..... 61

- (1) 組織の拡大・強化に努めた過激派
- (2) 「よど号」グループ・日本赤軍の動向

**■ 4 共産党** ..... 64

解散・総選挙を見据えて諸活動に力を注いだ共産党

**■ 5 右翼団体** ..... 66

領土・外交を中心に様々な活動をした右翼団体

**■ 巻末資料 最近の主要公安動向**

**■ コラム**

北朝鮮の「経済改革」について	5
北朝鮮が東南アジアとの関係強化を模索	7
李明博大統領の竹島訪問をめぐる北朝鮮の反応	9
朝鮮総聯議長について	14
「領有権問題」において“瓦解戦”を展開する中国	18
中国の南シナ海係争島しょの実効支配をめぐる主な動向	21
ロシアの北極海政策	28
イスラム冒とく映画を受け各国で抗議デモ	31
ナイジェリアの「ボコ・ハラム」	36
イスラエル権益に対するテロ事件が相次いで発生	40
イラン・北朝鮮の協力関係は継続	43
頻発するサイバー攻撃事案	43
事件から17年、オウム真理教特別手配被疑者全員が逮捕	47
主流派が麻原の著書を抜粋・編集した新刊書籍を出版	52
上祐史浩の“メディア戦略”の欺まん性	55
脱原発グループが経産省の敷地を不法占拠	58
過激派の活動スタイルの変化	62
領土をめぐる様々な動きが	68